

－はじめに－

人口減少の進展、地域のつながりの希薄化等により地域の教育力が衰退している中で、「社会に開かれた教育課程」の実現、いじめ・不登校の増加、学校における働き方改革等、子どもを取り巻く課題はますます複雑化・多様化しています。

そのような課題を解決と学習指導要領の「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創る」という目標を実現するため、学校、地域、家庭が、相互に連携・協働し、地域全体で子どもたちの教育環境を充実・向上させていく必要があります。

本県は、滋賀の教育大綱（第4期滋賀県教育振興基本計画）において、社会のみんなが、自分や相手、地域社会それぞれに対して愛情をもって教育に取り組むことで、自分を大切にし、相手を尊重し、地域に誇りと愛着を持つことができる人づくりを目指す、教育施策の方向性を示しています。

具体的には、引き続き、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進や家庭教育支援体制の構築等に取り組むこととしています。

そのような中、本年度、本事業にかかわるすべての関係者の方々が、活動の原点に立ち返り“だれのための活動か”、“活動の目的は何か”をみつめなおし、さらなる取組の質的向上を目指していただくことを願って、「みつめなおして、よりよく」をテーマとして掲げ、研修会等をとおして発信させていただきました。

本実践事例集は、地域全体で学びあい、支えあう仕組みづくりの推進に資するものとして、県内各地域で一年間、地域の実情に応じた工夫や努力によって取り組まれた実践をまとめたものです。県内の取組を参考に、事業の更なる拡充や質的向上に取り組んでいただければと存じます。

また、今後、学校と地域の連携・協働体制の構築を目指される市町におかれましては、本実践事例集を参考にいただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃より本事業をとおして地域全体で子どもたちの成長を支えけるとともに、地域づくりに御尽力いただいている関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援のほどお願いします。

また、本事例集の編集に際し、貴重な情報提供や寄稿をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和7年（2025年）3月

滋賀県教育委員会事務局生涯学習課